

## 4. 水害と治水事業の沿革

### 4-1 既往洪水の概要

渚滑川流域では、過去に以下に示す洪水が発生している。

表 4-1 既往の主要洪水の概要

発生年月日	原因	上渚滑地点 流域平均雨量 (総雨量) (mm)	上渚滑地点 流量 (m <sup>3</sup> /s)	被害等
大正 11 年 8 月	台風	152	推定 1,300	被害家屋(戸) 約 300 死者 (名) 1
昭和 7 年 8 月	低気圧・前線	96	推定 580	被害家屋(戸) 238 氾濫面積 (ha) 1,038
昭和 46 年 10 月	低気圧	72	770	被害家屋(戸) 115 氾濫面積 (ha) 222
昭和 50 年 8 月	台風・前線	95	700	被害家屋(戸) 40 氾濫面積 (ha) 23
昭和 54 年 10 月	台風	125	510	被害家屋(戸) 85 氾濫面積 (ha) 8
平成 10 年 9 月	台風	101	1500	被害家屋(戸) 197 氾濫面積 (ha) 310
平成 12 年 9 月	前線	150	1180	被害家屋(戸) 12
平成 13 年 9 月	台風	155	970	被害家屋(戸) 3 氾濫面積 (ha) 1
平成 18 年 10 月	前線	215	1460	被害家屋(戸) 7 氾濫面積 (ha) 38

注 1) 被害等は、「水害」「水害統計」及び「北海道災害記録」「北海道地域防災計画(資料編)」による

注 2) 北海道災害記録による被害等は集計上、支川、内水被害を含む。流域外被害も含む

注 3) 平成 18 年 10 月洪水は、速報値

主な水害は以下のとおりである。渚滑川の既往最大は平成10年9月洪水である。

表 4-2-1 主な洪水の概要表 被害実態(1)

洪水発生年月	被害の概要
大正11年8月	<p>・8月下旬から降雨つづぎのところへ、24日にいたって台風が根別国境を通過して、オホーツク海へ抜けたため豪雨となり、翌25日にかけて全道的に河川が氾濫、大災害となった。</p> <p>「新紋別史 下巻」より 大正十一年八月の水害は明治三十一年につく、大正時代では最大の災害であった。二〇日朝からこの台風の影響をうけはじめた紋別地方は二三日夜半にはしのつくような暴風雨の圏内にはいって藻別川は平常水位を三メートルもこえる濁流とかわり、各所の堤防が決壊した。「紋別町史」によると濁流にのまれた区域は南北九、五十口、面積二八二ヘクタール。中藻別から元紋別一円に及び、畑作物が立毛のまま流されたほか、低地の家屋や道路も水没して、被害は四万五〇〇〇円余りに及んだ。 渚滑川に至るところで決壊して、収穫直前の真作物が全滅したのをはじめ、上渚滑町三二線(旧市街)の記念橋が流失するなど橋梁流失三二ヵ所、道路決壊二四ヵ所にのぼり、一ニ線では国鉄渚滑線の建設工事に従事していた工夫らが応急のイカダで非難する途中、一人が濁流にのまれて死亡した。また渚滑川口に貯木していた北見木材会社(飯田嘉吉経営)の木材約一〇万石が一夜にしてオホーツク海に、会社が閉鎖に追い込まれたのもこのときであった。渚滑市街は水深一、二メートルに達し、住民は水がひくまで舟やイカダを組んで通行した。</p> <p>「紋別町史」第一部 紋別より 大正十一年八月、全道的に発生した大水害は明治三十一年以来最大のものといわれ、渚滑川は増水はん濫し、河口に貯木してあった北見木材株式会社(飯田嘉吉重役)の木材十萬石が一夜にして流失してしまった。また陸地では前年開通したばかりの名寄本線鉄道が寸断され、レールは鉛細工さながらにくいやくに曲がる有様。渚滑市街は水深四尺に達して完全に水中に没し去り、舟あるいはイカダを組んで町内を通行する景観を呈した。 港湾実現運動の第一線に立って奮闘を続けていた飯田嘉吉はこの水害で会社閉鎖の致命的な打撃を受け、この後は会社再建の災害対策に没頭せざるを得なくなった。</p> <p>「紋別町史」第二部 上渚滑より 大正十一年八月十三日から降り続いた雨で、増水しつづつあった渚滑川は、十五日朝方からみるみる水かさを増し、ついに三十二線旧市街辺で水流は流域からあふれ出て、周辺の道路、畑地まで冠水した水勢は正午近くになってますます奔馬の勢いで、折柄種り入れ直前の夏作物をなぎ倒し、なおも付近民家を襲っては床板を突きあげて破り、水流に乗って流れる板切れや丸太材の上には鶏がけん命にしかみついて流されていくのが、見る人の衰れをさそっていた。道路上の通行が可能となったのは、十六日も夕刻に近くになってからであったが、この時の出水で、三十二線旧市街に架けられてあった記念橋が破損流失したのをはじめ橋梁流失三十二ヵ所、流域道路の穴壊二十四ヵ所、畑地冠水による被害は、宮農の全滅を思わせるほどであったほか、十二線付近に飯場を設けて渚滑線建設工事に従事していた鉄道工夫たちが、応急のイカダで非難する途中、一人の工夫夫はあやまって水中に転落溺死した。</p> <p>「紋別町史」第三部 渚滑より 大正十一年八月の水害は、明治三十一年につく災害であり、被害状況は、続く暴風雨の来襲に河川氾濫を起し、沿岸一帯の畑がたちまち一面の泥海と化したため、作物は流失、農具を失うことはもちろん、農民は雨露をしのぐすべさなく、再び農業に従事する気力を失った。特に飯田嘉吉の経営する北見木材会社では、流木のために河川の堤防が欠壊するという恐れから、川尻のトメヤ網羽を切ったことがもとで、約十萬石の木材を一度にオホーツク海に流失したのも、この時のことであった。</p> <p>「紋別町史」より 大正十一年も亦七、八月と全道的に水害あり、本町も八月二十四日の出水でモベツ川流域の堤防決壊し、耕作物の流失、道路の埋没、毀損等夥しく、畑作物は立毛のまま流失し、損害四萬五千餘圓と見積もられた。降雨の初は八月二十日午前九時頃で、二十三日午後十時頃最も甚だし、増水最高十尺五寸に及び、氾濫区域は東西七町、南北二里十五町、面積二百八十二町歩で、中モベツ、元紋別一圓に亘つたのである。之が復舊の費用は全道的であった関係上、大蔵省預金部から低利資金を融通する旨指示があったけれど本町は自力で復舊したのである。此の水害は本道として未曾有の水害であったので、各方面の政客等が實地調査と慰問に来道した。</p> <p>「新撰滝上町史」より 大正十一年八月二十三日は早朝からの降雨によって、本町地内の各河川は刻々と増水し、翌二十五日午前五時から一時間のあいだに、その増水度は、滝上市街付近九、一メートル、滝上原野六線付近三、六メートル、同原野一〇線付近三、〇メートル、サクルー原野九号付近三、〇メートル、オシラネツ原野二号付近三、六メートル、上渚滑原野五二線付近六、一メートルを示し、明治三十一年の水害以後の大水害となり、当時にくらべて増水二、四メートルの高水位となって氾濫したものである。 このため二十五日午前七時から家屋の流失、橋梁の流失損壊などが激しく、流水はすざまもなく流れくたたり猛威をきわめた。これは本町の河川流域一帯の堤防敷地が高く、容易に氾濫浸水することがなかったが、オシラネツ川一〇九号以東、シラトリマップ川、滝上原野二二線熊出川、モセカルシュユナイ川、サクルー川一三三号以東などの流域は、いずれも堤防敷地が低かったため、遂に氾濫し、浸水家屋五戸、流失家屋四棟、豚一丸頭およびその他家畜をへい死させ、ことに網走〜滝上線道路穴壊のため、他町村との連絡はとたえ、交通がまったく不能になった結果、滝上市街は糧米欠乏の惨状をみせた。 この浸水面積一、二、九ヘクタールで、損害高は道路穴壊九ヵ所、一、一、八メートルの約四千円、橋梁流失六ヵ所一万六五九〇円、橋梁損壊九ヵ所計三万八〇〇〇円、流失家屋四棟三二〇〇円、畑その他の流失および冠水一四、三ヘクタール六〇〇〇円、農作物被害二八一〇円、その他五〇〇円、合計六万五七〇一円の巨額に達し、開村以来未曾有の大水害を現川およびサクルー川の増水氾濫となり、サクルー原野八線サクルー川架設の思案橋を流失させたほか、同原野南一四線千歳橋、滝上原野二〇線の藻瀬橋、白鳥六号橋などの破損流失および三橋橋損などの損害約六二〇〇〇円に達した。</p> <p>「滝上村誌」より 大正十一年八月二十三日朝からの降雨に依って、木村地内の各河川は刻々に増水して、翌二十五日午前五時から一時間の中に、最高水位三十尺に達し、その増水度は、滝上市街付近三十尺、滝上原野六線附近十二尺、同原野二十線附近十尺、サクルー原野九線附近十尺、オシラネツ原野二二線附近十二尺、上渚滑原野五二線附近二十尺を示し、明治三十一年の水害以後に於ける大水害となり、當時に比べて増水八尺余の高度となって氾濫した。これかため二十五日午前七時より家屋の流失、橋梁の流失破壊等激しく、流木は寸隙なく流下し、水勢は西北方は出水少なく、東南方に於て最も猛威を極めた。これは木村の河川流域一帯の堤防が高く、容易に氾濫浸水することがなかったが、オシラネツ川十九線以東、シラトリマップ川、滝上原野二十九線熊出川、モセカルシュユナイ川、サクルー川十三号以東等の流域は、何れも堤防が低かったため遂に氾濫し、浸水家屋五戸、流失家屋四棟、豚十九頭及び其他の家畜を露死せしめ、殊に網走、滝上線道路穴壊のため、他町村との連絡は絶絶し、交通全く不能に陥った結果、滝上市街は糧米欠乏の惨状を呈するに至った。此の浸水面積百二十三町歩で、損害見積高は道路穴壊九ヵ所、六十七間の約四千圓、橋梁流失六ヵ所、一萬六千五百九十圓、橋梁破壊九ヵ所、三萬八千一圓、流失家屋四棟、三千二百圓、畑其他の流失及浸水四町四反歩、六百圓、農作物被害二千八百十圓、其他五百圓、合計六萬五千七百二圓の巨額に達し、開村以来未曾有の大水害を現出せしめたのである。此の惨害に鑑み木村は二千四百五十圓の経費と、関係部落民の夫役に依って直ちに復舊工事を完成し又罹災者に對しては救済の方途を講じ、隣保共助の實績を示してこれが萬全を期したのである。</p> <p>「水を治めて半世紀 治水事業の歩み 湧別川・渚滑川」より (降水量)紋別98、上渚滑95mm、渚滑河口74.5mm(被災内容)紋別市上渚滑町32線下流全域一帯浸水、死者1名、家屋浸水約300戸、道路損壊24、橋梁流失33箇所、木工場木材10万石流失、国鉄渚滑駅浸水</p>

表 4-2-2 主な洪水の概要表 被害実態 (2)

洪水発生年月	被害の概要
昭和7年8月	<p>・本道を横断した低気圧と寒冷前線による豪雨</p> <p>「新紋別史 下巻」より 昭和に移っても、この地方はたびたび水害に見舞われたが、なかでも七年八月の大洪水は六月末の晩霜で小豆類が全滅したばかりの農民に非常な追い打ちをかけた。 八月半ばの相つぐ雷雨などで水かさまをましていた各地の河川が、三〇、三十一日の集中豪雨で一気にはんらんした。最高増水位が五メートル近くに達した渚滑川流域の下渚滑では、四八〇ヘクタールの田畑と二三八戸の家屋が水びたしとなり、住民の大半は小舟などで高台や劇場、旅館の二階などに避難して二日間たぎしをうけた。災害の心労などが重なって手当を必要とする者も六〇人に達したため、村役場では渚滑第一小学校を仮診療所に当てて医師出張および巡回診断を依頼するなど、被災者の医療救護につとめた。 一方、渚滑でも川向を中心には八四〇ヘクタールが浸水、藻別川流域でも四二〇ヘクタールが濁流に洗われたほか、国鉄渚滑-沙留間、下渚滑-中渚滑の道床が延べ三キロにわたって流失あるいは冠水した。水がひくにつれ、農作物の被害は増大し、紋別、渚滑、下渚滑の総作付面積五一六〇ヘクタールに対し、水田七二ヘクタール、畑一六七二ヘクタールが泥土をかぶりたり、根こそぎ押し流されて収穫皆無または五割以上の減収となった。なんとか被害をまぬかれた作物もその秋の冷害で結局は収穫をみるに至らず、冬を前にしての農民の悲嘆は想像をはるかにこえるものであった。</p> <p>「紋別市史」第一部 紋別より 八月十四、十五日は本道各地雷雨をとまなう豪雨が發生し、加えて三十日、三十一日の豪雨のため付近の河川はんらんし、実に明治三十一年以来の大洪水を現出した。 このとき渚滑川の最高水位は四メートル五一に達し、下渚滑村市街(現在の渚滑)は大洪水で五百九十二町六歩にわたり浸水、二百三十八戸の家屋が水びたしとなり、藻別川では四百八町にわたってはんらん、約七万八千三百九十六円の損失額を出した。水害直後、田畑は濁流にのまれ転倒、根こそぎに流失するもの、泥をかぶった作物は境界の続くかぎり一面灰色の連続で、田や畑を洗い、床を埋めた惨憺の名残りを随所にとどめ、一点の緑さえ認められなかった。農作物の被害状況は田二百十六町歩と畑千三百七十三町歩の作付段別に対し、田七十町歩・畑三百五十二町歩の五割以上減収を出し、農家はこれがためまったく打撃を受け、秋には冷害凶作となり、全農家は全滅にちかき悲境におちた。</p> <p>「紋別市史」第三部 渚滑より 下渚滑村での状況は、八月六日から九月十四日の間に六回出水し、川向部落は全滅の状態を示したほど被害は甚大であった。 被害状況は路上浸水三尺にもおよび、家屋の浸水はもとより、鉄道の道床流失、軌上浸水、仮橋破損(三線の本道吊橋、六線古川の橋)など。また農地におよぼした被害も大きく、浸水地帯の農作物は泥土をかぶり転倒、あるいは根ごと押し流されて新緑さえも見れぬ有様、これがもてこの年は水害凶作という歴史的惨状を生み、農民に致命的打撃をあてた。</p> <p>「新撰滝上町史」より 昭和七年七月上旬からの降雨は九月下旬に至るまで、ほとんど間断なくつづき、その間七月十日および八月二十日の二度にわたり、渚滑川、サクルー川は出水氾濫して対象十一年につく大惨害となった。増水度は七月十日は四メートル、八月二十五日、五メートルに達し、この被害は、渚滑川流域堤防欠壊一三〇〇メートル六五〇〇円、各種工作物流失六五〇〇円、道路欠壊二〇〇〇メートル三八〇〇円、橋梁破損一〇ヶ所一万九八四〇円、水路破損その他五九〇三円、田流失約二ヘクタール七二〇〇円、畑流失約八ヘクタール一六〇〇円、農作物被害水稲三八七円、畑作物一二五円、計四万八〇二円、サクルー川流域、堤防欠壊約七〇〇メートル三五〇〇円、各種工作物流失三二一九メートル四九七〇円、橋梁破損一〇ヶ所一万五九一〇円、農作物被害一五七〇円、計二万四〇〇五円、総計六万五八〇九円を見るに至っている。</p> <p>「滝上村誌」より 昭和七年七月上旬からの降雨は、九月下旬に至る迄殆んど間断なく續き、其の間七月十日及び八月二十五日の二回に亘り、渚滑川、サクルー川は出水氾濫して、対象十一年に次ぐ大惨害を現出せしめた。増水度は第一回十三尺二寸、第二回十六尺五寸に達し、此の被害は渚滑川流域堤防欠壊七百五拾圓、六千五百圓、各種工作物流失六千五百圓、道路欠壊千四百三十八圓、橋梁破損十ヶ所、一万九千八百四十圓、水路破損その他五千九百三圓、田流失二町歩、七百二十圓、畑流失八町歩、一千六百圓、農作物被害水稲三百八十七圓、畑作物一千二百二十五圓、計四萬一千八百四圓、サクルー川流域、堤防欠壊三百八十五間三千五百圓、各種工作物流失七百圓、道路欠壊一千七百七十一間四千九百七十圓、橋梁破損十ヶ所一萬五千九百十圓、農作物被害一千五百七十圓、計二萬四千五百圓、総計六萬五千八百九圓の巨大な数字を示した。</p> <p>「水を治めて半世紀 治水事業の歩み 藻別川・渚滑川」より (降水量)渚滑河口117.7mm(被災内容)家屋浸水238戸、浸水面積1,038.4ha、寄本線道床流失100、渚滑線同300m</p>
昭和30年3月	<p>・温暖前線通過による融雪洪水</p> <p>「新紋別史 下巻」より 渚滑、藻別川などの水害の多くは集中豪雨によるものであったが、昭和三〇年春の上渚滑記念橋付近の出水は北国特有の融雪による増水と川面に張りつめていた水の流失がもたらしたものであった。異常な暖気でわかに融雪がすすんだ三月半ば、渚滑川は枝川から注ぎ込み雪融け水で急速に水かさが増し、しかもわん曲した箇所になまった多量の水が氷塊をせきとめる形となって一八日早朝、ついに上渚滑記念橋付近の和訓辺岸側がはんらん。紋別営林署上渚滑苗畑事務所、同官舎、農業松本伝の住宅などが延々四キロに及び濁流のなかにつかって孤立した。 市では急ぎ自衛隊連隊駐屯地に応援を要請、現地に派遣された隊員約二〇〇人は地元消防団員らとともに対岸に取り残された住民を救出する一方、水流をせきとめている各所の氷塊を爆破して、対岸にそそく濁流をくいとめた。この出水で営林署の苗畑などが大きな被害をうけたばかりでなく、記念橋も流失し、自然の威力をまざまざとみせつけた。現在の記念橋(永久橋)はこの災害の三年後に工費四三九〇万円で作られたものである。</p> <p>「紋別市史」第二部 上渚滑より 昭和三十年春の出水こそは、北国特有の融雪期における増水と、氷のいたずらによるもっとも大きな水害事件であった。 いままで川面をびっちり張りつめていた厚氷が打ち続く浅春の暖気で少しずつ融けはじめた三月中旬、上流からの流れが目に見えて水かさを増してきたのが、わかるような日々であった。それまで三十八線から三十二線にかけて、彎曲した箇所にある氷のため、流れを押えられていた水流は、十八日早朝、せきを切ったように、対岸和訓辺岸よりの紋別営林署苗畑付近にあふれ出し、そのまま大きな流れとなって、低地伝いに下流に水路をつくってしまった。このため和訓辺側の川岸は、さながら中州の形を取り残されたなかに、松本伝の住宅と畜舎が濁流に取り囲まれて助けを求めた。折柄松本伝は旅行中で不在、留守番の妹つや子は畜舎に残された四頭の馬と、あわや死をもにするとばかりと思われたが、地元消防団員の決死的な救助作業で無事救助され、また記念橋上流の営林署苗畑住宅の家族たちも同じく消防団員の手によって救出された。また災害の報に逸早く駆けつけた陸上自衛隊連隊部隊員約二百名は、救助作業に強力するかわたら、氷塊を爆破し水流の突破口を作って協力し、地元民から大いに感謝された。</p> <p>「水を治めて半世紀 治水事業の歩み 藻別川・渚滑川」より (最高気温)17日紋別14.8、上渚滑10.0℃(被災内容)家屋浸水28戸、道路損壊2箇所(40m)、畑流失15ha、氾濫面積50ha</p>

表 4-2-3 主な洪水の概要表 被害実態 (3)

洪水発生年月	被害の概要
昭和46年10月	<p>・集中豪雨</p> <p>「新紋別史 下巻」より 昭和四十六年秋の元紋別市街の水害は記録的な集中豪雨がもたらしたものであった。強風を伴って一〇月三〇日早朝から降り出した雨は翌日にはしつこくような豪雨(一〇月中の一日最高雨量としては紋別測候所開設以前の六〇、五ミリ)にかわり、一一月一日午前九時までの雨量は八九、二ミリに達した。</p> <p>この記録的な集中豪雨で藻別川はたどころに増水し、一日未明ついに濁流が元紋別地区宝生橋上流三〇〇メートル右岸と下流五〇〇メートル右岸二ヵ所の堤防をこえて市街地に流れ込み、午前四時ごろには北見丸ノ浦、元紋別小学校など市街地一帯が深さ八〇センチの濁流につかって五五棟(七〇世帯)が床上浸水、二三棟(二六世帯)が床下浸水した。深夜、異常出水をいち早く知った住民は畳をあげるなどして避難したものの、二階に就寝していた住民の一部約二〇人は騒ぎで目を覚ましたときにはすでに肩までつかる濁流が階下流れ込んで避難することができず、二階で救出を待った。</p> <p>市は直ちに庁内に水害対策本部、現地に連絡事務所を設け、警察、消防署団員らにより排水路の開さく、決壊した道路、河川の土のう積みなど応急作に全力をあげるとともに、民家に孤立した住民をゴムボートなどで救出、うち疲労の著しい三人を病院に収容した。また、市役所、元紋別小学校などに避難した被災者約一〇〇人にたき出しを行った。</p> <p>開さく作業で一日夜九時ごろには水も引いたが、床上浸水の七〇世帯約二五〇人はほとんど着のみ着のままの避難だったので夜具、毛布、日用品類を給与。また別表にあげたように市内各所においても農業、土木関係の被害が甚大であったため、一一月九日の臨時市議会で元紋別地区被災者の救済費をふくめ総額二七五一万円の救済、災害復旧追加予算を可決した。</p> <p>一方、網走土木現業所は災害後、元紋別市街地付近の藻別川沿いに全長約五〇〇メートル、高さ一、七八メートルの築堤を設け、さらに五五年一月樋門を設置、五七年には宝生橋下流を切替え改修した。</p> <p>床上浸水(元紋別五五棟七〇世帯二四九人、藻別、鴻之舞各一棟)床下浸水(元紋別二三棟二六世帯八九人、鴻之舞一六棟四〇世帯一六二人、清滑三棟三世帯一人)畑地冠水五六七ヘクタール(清滑一四四、藻別一二七、小向一二〇、沼の上八五、上清滑七六)市道決壊四ヵ所七三メートル(清滑二、紋別、上清滑各一)橋梁流失七ヵ所七六メートル(上清滑四、清滑二、藻別一)漁船被害四隻(沈没、座礁各一、破壊二)</p> <p>「水を治めて半世紀 治水事業の歩み 湧別川・清滑川」より (降水量)清滑85、上清滑122、滝上97.5mm(被災内容)中清滑地区家屋床上浸水3、床下4、清滑地区家屋床下浸水3戸、奥東地区(沢川)畑15ha</p>
昭和50年8月	<p>・台風6号と前線活動</p> <p>「水を治めて半世紀 治水事業の歩み 湧別川・清滑川」より (降水量)紋別112、上清滑84.7、滝上146mm(被災内容)内水氾濫による洪水、家屋床上浸水1、床下15戸</p>
昭和54年10月	<p>・台風20号</p> <p>「新紋別史 下巻」より 台風二〇号(瞬間最大風速三三、五メートル、一九日の雨量七〇、五ミリ)により元紋別、清滑地区三六戸床上浸水、四九戸床下浸水、元紋別では住民がゴムボートなどで避難、国鉄名寄、清滑線なども不通になった。(ほかに道路流失など一四ヵ所、橋梁流失破壊五ヶ所、河川八ヵ所決壊、北浜地区海岸堤決壊二四〇メートル、定置網一七ヵ統流失、復旧工事費三億八三二八万円)</p> <p>「水を治めて半世紀 治水事業の歩み 湧別川・清滑川」より (降水量)紋別70.5、上清滑101.5、滝上82.9mm(19日)(被災内容)内水氾濫による洪水、家屋床上浸水3、床下同8戸、橋梁流失1箇所、氾濫面積(清滑町)約0.5km<sup>2</sup></p>
平成10年9月	<p>・平成10年9月16日午前4時ごろ静岡県御前崎付近に上陸した台風5号は、関東地方を北上し、16日正午ごろには仙台市付近を通過し、いったん三陸沖海上に出た後、18日午後8時すぎ釧路市付近に再上陸した。その後は北北東に進路を進め18日深夜に根室沖の海上に抜けた。このため、網走・北見・紋別地方は16日から17日にかけて強い雨が降り続き、網走川の美幌で76mm、常呂川の北見で84mm、湧別川の遠軽で127mm、清滑川の上清滑で181mmを記録した。</p> <p>「平成10年9月16日～18日台風5号による洪水 速報」より 清滑川流域においては、下流域の西奥部179mm、上藻別214mm、紋別150mm、上清滑181mmと記録的な大雨となり、上流域でも上立牛129mm、奥札久留130mm、滝ノ上106mm、滝ノ上39線116mmの大雨となった。この豪雨により河川は急激に増水し、下流部の上清滑及び清滑橋の各観測所では洪水水位が計画高水位をこえ、観測史上最高の水位を記録した。このため、紋別市、滝上町では7世帯16人が自主避難を告げない18日20時頃には紋別市から4地区239人に対し避難勧告(243人)が発令されたが溢水氾濫まではいならず、被害は紋別市と滝上町で床上浸水44棟、床下浸水117棟であった。</p>
平成12年9月	<p>・雨は平成12年9月1日から降り始め、1日15時から3日24時までの総雨量は、清滑川水系、湧別川水系で150mm前後を記録する大雨となった。この雨は、東シナ海から北上した台風12号が温帯低気圧に変わり、また、北海道の南岸には1日曇りながら活発な前線が停滞し、同日夜には北海道の中部まで北上し停滞したことによりもたらされた。</p> <p>「平成12年9月2日～3日前線豪雨による洪水 速報」より 清滑川流域では、総雨量で滝ノ上39線観測所(203.0mm)、奥札久留観測所(169.0mm)、上立牛観測所(169.0mm)、滝ノ上アマトス観測所(172.0mm)において既往最大の降雨を記録した。この雨の影響で、上清滑水位観測所(KP19.3)において最高水位39.43mを記録し、危険水位(38.9m)を12時間に渡って最大53cm超過、さらに滝ノ上水位観測所(KP37.5)、ウツツ橋観測所(KP7.0)、清滑橋観測所(KP2.0)においても警戒水位を超える洪水となった。</p> <p>各地で内水氾濫などが発生し、紋別市で6棟が床下浸水、滝ノ上町では6棟が床上浸水被害となった。 清滑川の各観測所では警戒水位を超える出水ではあったが、堤防決壊による外水被害等はなかった。</p>
平成13年9月	<p>・北海道に停滞していた秋雨前線が、台風15号の接近に伴って活動が活発となり網走、北見、紋別地方では広範囲にわたって200mmから280mmの大雨となった。10日から北海道付近に停滞していた秋雨前線の影響で、雄武や興部など北部では10日の早朝から雨が降り出していた。秋雨前線は10日の夕方には徐々に南下を始めたため、雨の範囲はオホーツク海側一帯に広がり、台風15号からの暖湿気流によって前線の活動は更に活発化した。台風15号は11日の午前9時ごろに神奈川県鎌倉市付近に上陸し、夜には再び宮古市付近から太平洋に進んだ。その後徐々に速度を上げて12日朝には釧路市の南東海上を通過して、午後3時に千島近海で温帯低気圧に変わった。これら、秋雨前線と台風15号の影響で、管内では3日間に渡って雨が降り、ピヤン山で279mm、滝上242mm、藻別233mm、網走でも211mmなど各地で200mmを超える大雨を観測した。</p> <p>「平成13年9月10日～12日秋雨前線と台風15号による洪水 洪水速報」より 清滑川流域では、滝ノ上観測所、上清滑観測所、清滑橋観測所のすべての観測所において警戒水位を超えた。清滑橋観測所では61時間にわたり警戒水位を超過していたが、堤防決壊などの外水氾濫には至らなかった。しかし、洪水継続時間が長かったため、ウツツ樋門箇所などでは内水が排出できず、排水ポンプ車による内水排除等の水防活動が行われた。</p>
平成18年10月	<p>・平成18年10月7日昼前から雨と風が次第に強まり、7日夜から9日にかけて記録的な大雨となり、降り始めからの総雨量が120mmから300mm前後を記録する大雨となった。この雨は本州南の前線上に発生した低気圧が、台風16号及び台風17号からの暖かく湿った空気を大量に取り込み、活動が活発になったことにより、もたらされた。</p> <p>「平成18年10月7日～9日低気圧による洪水 洪水速報」より 清滑川流域では、上流域の上立牛観測所(252mm)、奥札久留観測所(212mm)、滝ノ上観測所(227mm)において洪水期最大雨量を観測したほか、ウツツ橋観測所において警戒水位を、上清滑観測所15時間、清滑橋観測所18時間にわたり計画高水位を超え非常に危険な状態となったが、幸いにも外水氾濫には至らなかった。しかし、紋別市上清滑町、紋別市清滑町をはじめとする地域で農地や道路が冠水したほか、排水ポンプ車による内水排除等の水防活動が行われた。</p> <p>滝ノ上町で2地区7人が自主避難を行い、紋別市で8日11時頃より4地区699人に、滝ノ上町で8日17時頃1地区4人に対し避難勧告が発令された。被害は紋別市、滝上町における住宅一部破損棟、床下浸水7棟、浸水人口24人である。また、滝上町において上水道の被害があり約1390世帯で断水し、自治体職員や自衛隊などによる給水支援と復旧作業が行われた。</p>

出典

- 「北海道地域防災計画」平成14年3月発行 北海道防災会議
- 「新紋別史 下巻」昭和53年3月発行 紋別市
- 「紋別市史」昭和35年発行 紋別市
- 「紋別町史」昭和19年発行 紋別町
- 「新撰滝上町史」昭和51年8月発行 滝上町
- 「滝上村誌」昭和15年発行 滝上村
- 「水を治めて半世紀 治水事業の歩み 湧別川・清滑川」昭和63年12月発行 (財)北海道河川防災研究センター
- 「平成10年9月16日～18日台風5号による洪水 速報」平成10年9月22日作成 国土交通省北海道開発局網走開発建設部
- 「平成12年9月2日～3日前線豪雨による洪水 速報」平成12年9月8日作成 国土交通省北海道開発局網走開発建設部
- 「平成13年9月10日～12日秋雨前線と台風15号による洪水 洪水速報」平成13年9月28日作成 国土交通省北海道開発局網走開発建設部
- 「平成18年10月7日～9日低気圧による洪水 洪水速報」平成18年11月15日作成 国土交通省北海道開発局網走開発建設部

- 大正 11 年 8 月 23 日～25 日洪水

8 月 21 日朝、グアム島の北方海上に台風が発生し、次第に北上して 24 日朝伊豆半島の南端に達し、千葉県下を通過し東海岸に沿って進み、24 日の深夜より 25 日にわたり北海道の南東海岸を過ぎ、釧路・根室の国境辺を抜けてオホーツク海に出て遠く北東に去った。

23 日～25 日の雨量は、紋別 98mm、上渚滑 95mm で被害は紋別市、上渚滑町 32 線下流全域一帯に浸水し、死者 1 名、家屋浸水約 300 戸、橋梁流出 33、道路損壊 24 箇所、木工場木材 10 万石流失、国鉄渚滑駅浸水。

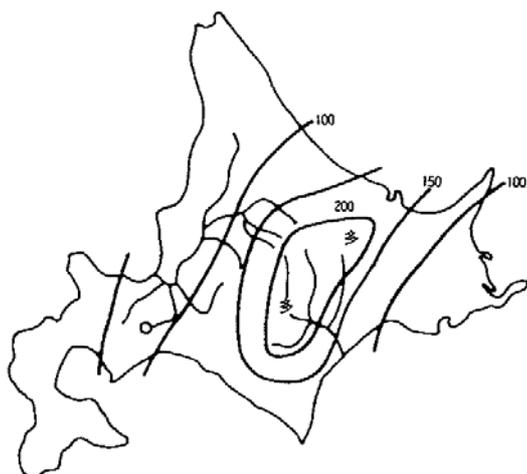


図 4-1 大正 11 年 8 月 23 日から 25 日までの等雨量線図 写真 4-1 渚滑右岸市街氾濫状況

- 平成 10 年 9 月 16 日～18 日洪水

9 月 16 日午前 4 時ごろ静岡県御前崎付近に上陸した台風 5 号は関東地方を北上し、16 日正午ごろには仙台市付近を通過し、いったんは三陸沖海上に出た後、16 日午後 8 時すぎ釧路市付近に再上陸した。その後は北北東に進路を進め 16 日深夜に根室沖の海上に抜けた。

渚滑川流域においては、下流域の西興部 179mm、上藻別 214mm、紋別 150mm、上渚滑 181mm と記録的な大雨となり、上流域でも上立牛 129mm、奥札久留 130mm、滝ノ上 106mm、滝ノ上 39 線 116mm の大雨となった。

この豪雨により河川は急激に増水し、下流部の上渚滑及び渚滑橋の各観測所では洪水水位が計画高水位をこえ、観測史上最高の水位を記録した。

このため、紋別市、滝上町では 7 世帯 16 人が自主非難をおこない 16 日 20 時頃には紋別市から 4 地区 239 人に対し避難勧告(243 人)が発令されたが溢水氾濫まではいならず、被害は紋別市と滝上町で床上浸水 47 棟、床下浸水 150 棟であった。

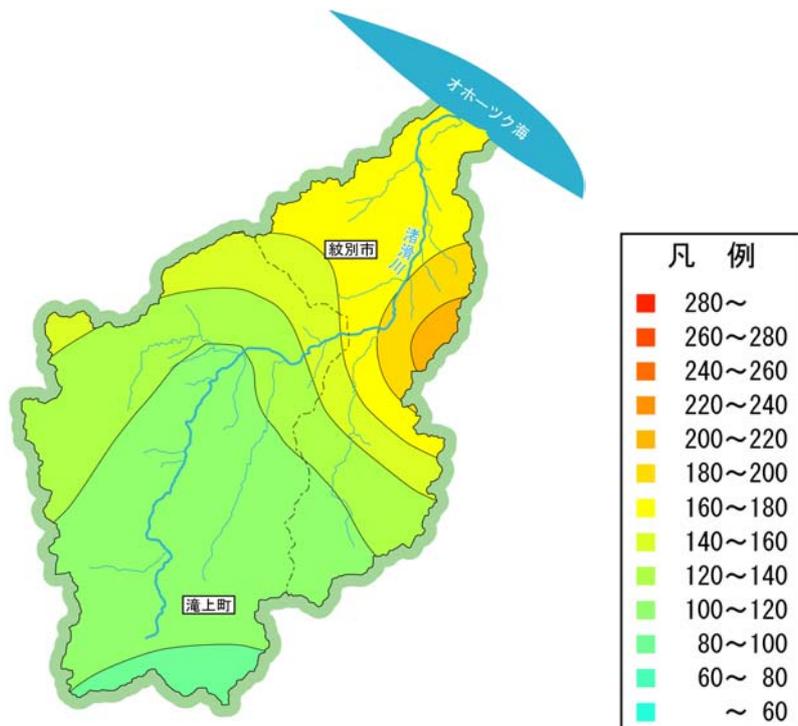


図 4-2 渚滑川の総降雨量分布（平成 10 年 9 月）



写真 4-2 ウツツ地区の内水排除状況



写真 4-3 記念橋下流の洪水流下状況

- 平成 18 年 10 月 7 日～9 日洪水

平成 18 年 10 月 7 日昼前から雨と風がしだいに強まり、7 日夜から 9 日にかけて記録的な大雨となり、降り始めからの総雨量が 120mm から 300mm 前後を記録する大雨となった。この雨は本州南の前線上に発生した低気圧が、台風 16 号及び台風 17 号からの暖かく湿った空気を大量に取り込み、活動が活発になったことにより、もたらされた。

渚滑川流域では、上流域の上立牛観測所(252mm)、奥札久留観測所(212mm)、滝ノ上観測所(227mm)において洪水期最大雨量を観測したほか、ウツツ橋観測所において警戒水位を、上渚滑観測所で 15 時間、渚滑橋観測所で 18 時間にわたり計画高水位を超え非常に危険な状態となったが、幸いにも外水氾濫には至らなかった。しかし、紋別市上渚滑町、紋別市渚滑町をはじめとする地域で農地や道路が冠水したほか、排水ポンプ車による内水排除等の水防活動が行われた。

滝上町で 2 地区 7 人が自主非難を行い、紋別市で 8 日 11 時頃より 4 地区 699 人に、滝上町で 8 日 17 時頃 1 地区 4 人に対し非難勧告が発令された。被害は紋別市、滝上町において、床下浸水 7 棟、浸水人口 24 人である。また、滝上町において上水道の被害があり約 1,390 世帯で断水し、自治体職員や自衛隊などによる給水支援と復旧作業が行われた。

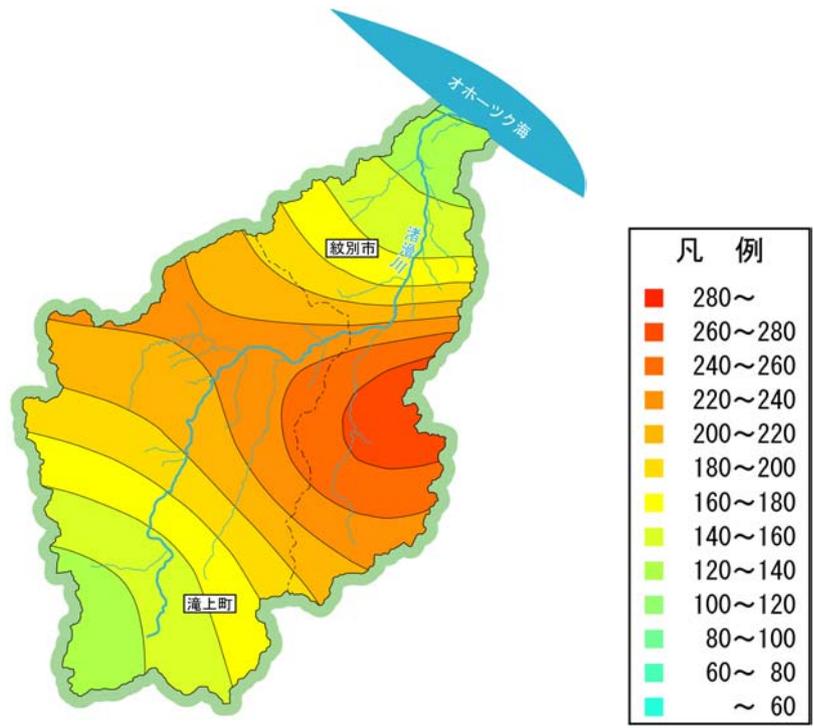


図 4-3 渚滑川の総降雨量分布（平成 18 年 10 月）



写真 4-4 渚滑右岸樋門 内水排除状況



写真 4-5 ウツツ地区の内水氾濫状況



写真 4-6 渚滑橋下流の洪水流下状況



写真 4-7 記念橋下流の洪水流下状況

## 4-2 治水事業の沿革

渚滑川は、大正 8 年に河川測量に着手し、資料を収集した。大正 15 年には北海道庁により治水計画を立案した。しかし、財政難のため着手には至らなかった。大正 11 年 8 月の大洪水に鑑み北海道第 2 期拓殖計画に計上されたが応急的な工事を施工するに止まった。昭和 7 年大水害を蒙るに至り、計画高水流量 50,000 立方尺秒(約 1,300m<sup>3</sup>/s)を目標に河口から 21km 区間について河道の整正、新水路の掘削、築堤を整備することとし、昭和 9 年に着手した。

### 4-2-1 治水事業

渚滑川における治水事業は、大正 11 年の洪水を契機とし、昭和 7 年洪水被害により本格的治水工事の必要に迫られ、昭和 9 年より着手することになり、河口より中渚滑 22 線に至る延長 16km の区間に対し築堤、護岸、支川においては逆水堤を施行し、洪水の疎通及び低水路維持を図ることとし、昭和 9 年 7～8 線及び 16～19 線、昭和 10 年 21～24 線、昭和 11 年 9～10 線の蛇行著しい箇所について、延べ 3,740m の切替を行い完成した。

引き続き、第 2 期工事として、河口 2～6 線より掘削及び築堤を施行し、順次上流部へ移行し併せて、洗掘著しい箇所の護岸工事実施にあたったが、第 2 次大戦のため中断された。

戦後の治水事業は、残事業の継続実施を主体として改修を進めた。昭和 35 年度以降の第 1 次及び第 2 次治水事業 5 ヶ年計画では、河口部右岸築堤及び宇津々左岸築堤を概成させ、護岸、水制を実施した。引き続き昭和 43 年度以降の第 3 次治水事業 5 ヶ年計画では、中渚滑右岸築堤暫定嵩上げ、和訓辺築堤に着手し、中渚滑右岸築堤については昭和 45 年度において完成した。昭和 47 年度からの第 4 次治水事業 5 ヶ年計画は、和訓辺築堤を完成し、渚滑左岸下流特殊堤に着手した。昭和 52 年度以降の第 5 次治水事業 5 ヶ年計画は、渚滑左岸特殊堤を完成させた。昭和 57 年度より始まった第 6 次治水事業 5 ヶ年計画では、河口左岸導流堤に着手し、昭和 62 年度より始まった第 7 次治水事業 5 ヶ年計画では渚滑右岸護岸に着手、河道の安定化を図っている。平成 4 年度からの第 8 次治水 5 ヶ年計画では、中渚滑右岸築堤および渚滑右岸築堤および渚滑右岸築堤の漏水対策工に着手し、平成 9 年からの第 9 次治水 5 ヶ年計画では渚滑右岸樋門改築に着手した。

表 4-3 明治以後の渚滑川の主要な治水事業年譜

関連事業	年代	治水史	
	1896 (M29)	河川法公布される	
	1907 (M40)	網走土木派出所が設置される	
北海道第1期拓殖計画 (明治43年～昭和元年)	1919 (T 8)	渚滑川の測量調査始まる	
	1926 (T15)	治水計画樹立	
	1934 (S 9)	渚滑7線～8線間、16線間、19線間切替着手	
北海道第2期拓殖計画 (昭和 2年～昭和21年)	1935 (S10)	中渚滑21線～24線間切替着手	
	1936 (S11)	渚滑9線～10線間切替着手	
	1937 (S12)	渚滑2線～6線間切替着手	
戦後の空白の時代 (昭和22年～昭和26年)	1947 (S22)	上渚滑31線～32線間切替着手	
	1948 (S23)	河口導流堤防施工	
	1949 (S24)	河口導流堤防施工	
	1951 (S26)	渚滑右岸築堤(9線～11線)、下渚滑右岸築堤(13線～16線)、中渚滑右岸築堤(16線～20線)着手 北海道開発局が発足、網走開発建設部が設置される	
	1952 (S27)	中渚滑右岸築堤(24線～26線)着手	
第1期北海道総合開発計画 (昭和27年～昭和37年)	1953 (S28)	上渚滑右岸築堤着手	
	1954 (S29)	上渚滑右岸築堤、下渚滑12線川逆水堤完了	
	1955 (S30)	附帯工事渚滑橋着手	
	1956 (S31)	中渚滑豊成川、中渚滑25線川逆水堤及び中渚滑右岸築堤完了	
	1958 (S33)	下渚滑右岸築堤、渚滑左岸築堤完了	
	1959 (S34)	附帯工事渚滑橋完了	
	第一次治水五ヶ年計画 (昭和35年～昭和39年)	1960 (S35)	附帯工事宇津々橋完了
		1961 (S36)	中渚滑豊成川掘削着手
		1963 (S38)	河口右岸築堤、宇津々左岸築堤着手
	第二次治水五ヶ年計画 (昭和40年～昭和44年)	1966 (S41)	河口右岸築堤、宇津々左岸築堤完了
1969 (S44)		中渚滑右岸築堤暫定嵩上げ着手	
第三次治水五ヶ年計画 (昭和43年～昭和47年)	1970 (S45)	中渚滑右岸築堤完了、渚滑左岸築堤暫定嵩上げ着手 渚滑川1級河川に指定される	
	1971 (S46)	和訓辺左岸築堤着手	
	1972 (S47)	和訓辺左岸築堤完了	
	第四次治水五ヶ年計画 (昭和47年～昭和51年)	1973 (S48)	渚滑左岸護岸着手
		1974 (S49)	渚滑左岸築堤下流部特殊堤着手
第五次治水五ヶ年計画 (昭和52年～昭和56年)	1975 (S50)	渚滑左岸護岸完了	
	1977 (S52)	渚滑左岸築堤高水護岸着手	
	1978 (S53)	渚滑6線樋門新設	
	1980 (S55)	渚滑左岸築堤下流部特殊堤完了	
	1981 (S56)	上渚滑築堤引堤、中渚滑25線川切替施工	
第六次治水五ヶ年計画 (昭和57年～昭和61年)	1982 (S57)	渚滑河口導流堤着手	
	1983 (S58)	宇津々川左岸護岸施工	
	1984 (S59)	清瀬川掘削築堤護岸着手、上渚滑右岸築堤嵩上げ着手	
	1985 (S60)	上渚滑右岸築堤嵩上げ完了	
	1986 (S61)	中渚滑右岸築堤嵩上げ着手(昭和61～63年)	
	第七次治水五ヶ年計画 (昭和62年～平成 3年)	1987 (S62)	渚滑右岸護岸着手(昭和62～平成4年)
1991 (H 3)		中渚滑右岸低水護岸施工	
1993 (H 5)		中渚滑右岸築堤(漏水対策工)着手・完了	
第八次治水五ヶ年計画 (平成 4年～平成 8年)	1994 (H 6)	渚滑右岸築堤(漏水対策工)着手(平成12年完了)	
	1995 (H 7)	渚滑左岸樋門改築 よつば大橋着手(平成11年完了)	
	1997 (H 9)	河川法改正	
第九次治水五ヶ年計画 (平成 9年～平成15年)	1998 (H10)	渚滑右岸樋門改築着手(平成11年完了)	
	2001 (H13)	渚滑左岸築堤着手完了 オホーツク水防公開演習	
	2002 (H14)	宇津津樋門改築	
	2003 (H15)	河川等管理用光ファイバネットワーク事業着手 水防拠点整備事業着手	

※ 網走4河川治水事業概要より